

極東開発工業

適用範囲		モデル名		PY120(A)-36	PY100-30-S	PT80-10	PT85-10
		吸吐弁形式	—	スイング	スイング	スイング	スイング
		最大吐出量	m ³ /h	120(85)	105(73)	80(55)	86(55)
		最大吐出圧力	MPa	4.6(6.6)	4.9(7.0)	11.8(8.3)	11.8(7.3)
		アーム最大地上高	m	35.6	29.8	〈アーム無し〉	〈アーム無し〉
		適用号機		96P010001～04P*****	09P030001～	92P000001～01P*****	07P030001～
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
作業装置	圧送	ピストンストローク回数	回/min	26±2	23±2	38±2	26±2
		ロータ回転数	回/min	—	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀) (1670 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
	かくはん装置	回転速度 チェーンのたわみ	min ⁻¹ mm	34±3 —	31±3 —	31±3 —	32±2 —
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀) (1670 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
		圧力設定値 (設定値到達時間)	MPa (min)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	真空ポンプ	圧力降下許容値 (保持時間)	MPa (min)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		Vベルトのたわみ	mm	—	—	—	—
	ブリーム装置	シリンダ 自然降下量	ブーム (1) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—
			ブーム (2) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—
			ブーム (3) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—
			ブーム (4) シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	—
			ブーム (5) シリンダ	mm	—	—	—
		(測定時間) (作動計測条件) (作業装置姿勢)	(min)	(10) (—)	(10) (—)	(—) (—)	(—) (—)
			[図面No.]	[図 No. 1]	[図 No. 1]	[—]	[—]
		☆ブームシリンダ 作動時間	ブーム (1) 伸び	sec	125±10	60±15	—
			縮み	sec	90±10	95±10	—
			ブーム (2) 伸び	sec	150±10	65±10	—
			縮み	sec	120±10	75±10	—
			ブーム (3) 伸び	sec	115±10	80±10	—
			縮み	sec	200±10	95±10	—
			ブーム (4) 伸び	sec	50±10	35±10	—
			縮み	sec	85±10	70±10	—
			ブーム (5) 伸び	sec	—	—	—
			縮み	sec	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数) (作動油温度) (作業装置姿勢)	(min ⁻¹) (℃) [図面No.]	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(—) (—) [—]	(—) (—) [—]
洗浄装置	水ポンプ (配管洗浄用)	吐出圧力	MPa	27.5±1	23.5±1	27.5±1	23.5±1
		油圧 水圧 飛距離	MPa m	4.9 —	6.6 —	6.5 —	10.5 —
	空圧機	吐出圧力	MPa	—	—	—	—
		(油圧ポンプ回転数) (エンジン回転数) (作動油温度)	(min ⁻¹) (min ⁻¹) (℃)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀) (1670 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)

☆印：新車基準値を表す(参考値)。

コンクリートポンプ車

PY125-36A	PY125-36A (front fit)	PY135-28-H	PY135-26-H	PY75B-17	PY120-30	PT110-10	PY90-17
スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング
124(90)	124(90)	135(100)	135(100)	78(55)	121(87)	100	90(65)
4.9(7.0)	4.9(7.0)	8.5(13.3)	8.5(13.3)	3.2(4.9)	4.9(7.0)	13.3	5.9(8.5)
35.6	35.6	27.9	25.8	16.6	29.8	〈アーム無し〉	16.6
11P12-3010～	11P12-3010～	14P02-0010～	13P04-0007 13P06-0024 13P11-0014	13P10-0004～	12P06-0007～	15P03-0007～	15P06-0016～
検査基準値							
24±2	24±2	26±2	26±2	36±2	27±2	26±2	39±2
—	—	—	—	—	—	—	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1739 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1875 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
31±3	31±3	33±3	36±3	31±3 20・チェーン中央	31±3	33±3	34±3 20・チェーン中央
—	—	—	—	—	—	—	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1489 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1990 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1739 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (1654 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1875 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)
—	—	—	—	—	—	—	—
(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
—	—	—	—	—	—	—	—
(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
—	—	—	—	—	—	—	—
0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下	— — — —	0.5 以下 0.5 以下 0.5 以下 —
—	—	—	—	—	—	—	—
(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(10) (—) [図 No. 1]	(—) (—) [—]	(10) (—) [図 No. 1]
60±10 120±10	75±10 105±10	65±10 70±10	60±10 70±10	70±10 70±10	60±15 95±10	— —	70±10 70±10
140±10 140±10	70±10 70±10	90±10 75±10	70±10 70±10	55±10 70±10	— 75±10	— —	55±10 65±10
135±10 135±10	60±10 75±10	60±10 90±10	45±10 90±10	65±10 90±10	80±10 95±10	— —	55±10 85±10
50±10 90±10	55±10 60±10	35±10 55±10	30±10 40±10	— —	35±10 70±10	— —	— —
—	—	—	—	—	—	—	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]	(—) (—) [—]	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10) [図 No. 3]
23.5±1 6.6 —	23.5±1 6.6 —	23.5±1 10.5 —	23.5±1 10.5 —	27.5±1 4.9 —	23.5±1 6.6 —	23.5±1 10.5 —	23.5±1 6.6 —
—	—	—	—	—	—	—	—
(1200 ⁺⁰ ₋₅₀) (992 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1200 ⁺⁰ ₋₅₀) (992 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1380 ⁺⁰ ₋₅₀) (1141 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1150 ⁺⁰ ₋₅₀) (1141 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀) (1739 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀) (1791 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)	(1380 ⁺⁰ ₋₅₀) (1141 ⁺⁰ ₋₄₀) (50±10)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀) (1875 ⁺⁰ ₋₅₀) (50±10)

極東開発工業

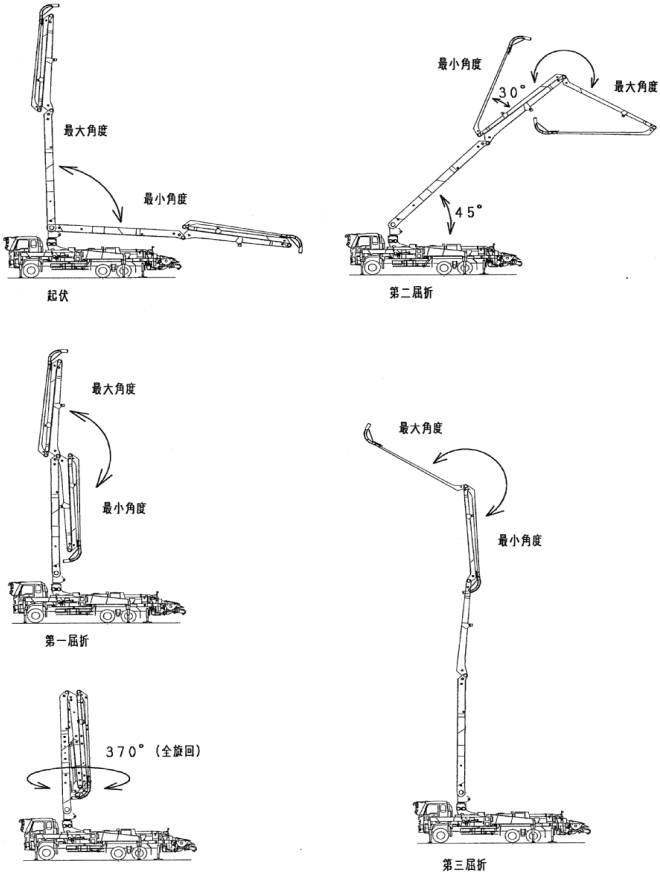
適用範囲		モデル名		PY120(A)-36	PY100-30-S	PT80-10	PT85-10
		吸吐弁型式	—	スイング	スイング	スイング	スイング
		最大吐出量	m ³ /h	120(85)	105(73)	80(55)	86(55)
		最大吐出圧力	MPa	4.6(6.6)	4.9(7.0)	11.8(8.3)	11.8(7.3)
		ブーム最大地上高	m	35.6	29.8	〈ブーム無し〉	〈ブーム無し〉
		適用号機		96P010001～04P*****	09P030001～	92P000001～01P*****	07P030001～
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値			
油圧装置	☆油圧機器 セット圧	主油ポンプ油圧	MPa	27.5±1	29.4±1	27.5±1	29.4±1
		弁シリンダ油圧	MPa	27.5±1	13.5±1	27.5±1	29.4±1
		かくはんモータ油圧	MPa	13.7±1	13.7±1	13.7±1	13.7±0.5
		ブーム油圧	MPa	28.4±1	29.4±1	—	—
		ACCガス封入圧力	MPa	—	7.8±1	7.8±1	7.8±1
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1400 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1670 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)
車体・安全装置	☆旋回ベアリング 取付けボルトの締付け	外輪取付ボルトの締付トルク	N・m	—	—	—	—
		内輪取付ボルトの締付トルク	N・m	—	—	—	—
		取付ボルトの交換基準	年	—	—	—	—
	☆旋回作動速度	旋回速度	sec	150±10	135±15	—	—
		(旋回作動角度)	(度)	(370・限定旋回)	(370・限定旋回)	(—)	(—)
		(油圧ポンプ回転数)	(min ⁻¹)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(—)
		(エンジン回転数)	(min ⁻¹)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(—)
		(作動油温度)	(℃)	(50±10)	(50±10)	(—)	(—)
	☆アウトリガ 自然伸縮量	各垂直シリンダ	mm	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5以下
		(測定時間)	min	(10)	(10)	(10)	(10)
		(作業装置姿勢)	[図面No.]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[—]	[—]
				1) 油圧ポンプは斜板を最大吐出量の状態にすること。 2) 標準圧送システムの場合について示す。 3) 自動給油は給油されていることを確認すること。 4) シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。			
特記事項						特記事項4) 適用外	
				5) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 13.8MPa	5) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa		

☆印：新車基準値を表す（参考値）。

コンクリートポンプ車

PY125-36A	PY125-36A (KOMI 社)	PY135-28-H	PY135-26-H	PY75B-17	PY120-30	PT110-10	PY90-17
スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング	スイング
124(90)	124(90)	135(100)	135(100)	78(55)	121(87)	100	90(65)
4.9(7.0)	4.9(7.0)	8.5(13.3)	8.5(13.3)	3.2(4.9)	4.9(7.0)	13.3	5.9(8.5)
35.6	35.6	27.9	25.8	16.6	29.8	〈ブーム無し〉	16.6
11P12-3010～	11P12-3010～	14P02-0010～	13P04-0007 13P06-0024 13P11-0014	13P10-0004～	12P06-0007～	15P03-0007～	15P06-0016～
検査基準値							
29.4±1	29.4±1	34.3±1	34.3±1	27.5±1	29.4±1	34.3±1	29.4±1
29.4±1	29.4±1	18.6±1	18.6±1	27.5±1	29.4±1	18.6±1	29.4±1
13.7±1	13.7±1	13.7±1	13.7±1	10.8±1	13.7±1	13.7±1	13.7±1
34.3±1	34.3±1	34.3±1	27.5±1	27.5±1	29.4±1	—	27.5±1
—	—	7.8±1	7.8±1	—	—	7.8±1	—
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀)
(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1654 ⁺⁰ ₋₄₀)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1739 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1654 ⁺⁰ ₋₄₀)	(1875 ⁺⁰ ₋₅₀)
(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)
—	—	—	294±9.8	325.6±9.8	—	—	325.6±9.8
—	—	—	294±9.8	325.6±9.8	—	—	325.6±9.8
—	—	—	特記 5)	特記 5)	—	—	特記 5)
135±10	70±10	155±15	165±15	70±10	135±15	—	65±10
(370・限定旋回)	(370・限定旋回)	(370・限定旋回)	(360・全旋回)	(360・全旋回)	(370・限定旋回)	(—)	(360・全旋回)
(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(2000 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1700 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1800 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(1900 ⁺⁰ ₋₅₀)
(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1489 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1654 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1990 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1739 ⁺⁰ ₋₅₀)	(1791 ⁺⁰ ₋₅₀)	(—)	(1875 ⁺⁰ ₋₅₀)
(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(50±10)	(—)	(50±10)
0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下	0.5 以下
(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)
[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[図 No. 2]	[—]	[図 No. 2]
1) 油圧ポンプは斜板を最大吐出量の状態にすること。 2) 標準圧送システムの場合について示す。 3) 自動給油は給油されていることを確認すること。 4) シリンダ耐圧テスト時は先端荷重は無しとする。							
			5) 締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪又は内輪)のボルト全数交換。			特記事項4) 適用外	5) 締付トルクを下回る緩みが1本でもあればそのベアリング輪(外輪又は内輪)のボルト全数交換。
6) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 13.8MPa			6) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa		6) ブーム制振装置 ACC ガス封入圧力 14MPa		

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-1 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
		
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-2 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-3 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)
		

項目	測定方法	計測姿勢
ブームシリンダ 自然降下	アウトリガを最大に張り出し、ブームをまっすぐに伸ばした状態で保持する。各ブームシリンダにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。 ブーム先端は先端ホースのみとし、過重は加えない。	図-4 ブームシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)
アウトリガシリンダ 自然降下	ブームを水平に伸ばし、測定対象のアウトリガの真上に置く。アウトリガにダイヤルゲージを取り付け、10分間の自然降下量を計測する。	図-5 アウトリガシリンダ自然降下計測姿勢 (下図参照)

項目	測定方法	計測姿勢
ブーム旋回 作動速度	アウトリガを最大に張り出し、各ブームシリンダの全ストロークの作動時間をストップウォッチで計測する。	図-6 ブーム作動速度計測姿勢 (下図参照)